

あなたを 苦しめているのは誰？

いじめ、自殺、虐待、病気、LGBT、認知症、アルコール・
タバコ・薬物中毒、ギャンブル依存症、窃盗症、貧困、離婚…

みんなが知らない本当の話。人間界の始まり。

昔むかし、天で戦いがありました。神様に仕えていた一人の天使が高ぶり、神様より偉くなろうとして反逆したからです。もちろん、戦いは神様が勝ちました。天使は地上に落とされ、神様はこの天使のために『地獄』を用意しました。地上に落とされた天使は、「サタン（悪霊のボス）」と呼ばれるようになり、地獄に行くその日まで、人間が住む地上の世界の神になりました。

その後、神様は自分に似せて人間を造りました。神様は、人間をととても愛していたので、サタンはそんな人間をねたましく思い、考えました、「そうだ！神様が一番望んでいない事をしてやろう。一人でも多くの人間と一緒に地獄に連れて行ってやるんだ！」その手段として、サタンは無数の悪霊を引き連れて人間をそそのかし、神様が望んでいない事をさせるようになったのです。サタンの目的（性質）は、神様を否定し、逆らい、「我こそが神」として人間をだまし、苦しめ、争わせ、盗み、殺し、滅ぼす事です。この世にあなたが誕生した瞬間から、サタンは家庭教育や学校教育、あらゆる環境、人、媒体をつかって自分の支配下に入れ、この滅びに至る目的を実行しているのです。（聖書 ユダの手紙6、ヨハネの黙示録12：9、20：2～3より）

世界中の人々に読まれ、毎年世界のベストセラー本になっている聖書には、そのような「サタン・悪霊」の存在が書かれています。レオナルド・ダ・ヴィンチが描いた「最後の晩餐」の絵を御存知でしょうか？イエス・キリストが十字架

にかかる前に、十二弟子と共にパンとぶどう酒で過越の食事をし、そこで十二弟子の一人であるユダが悪霊によって自分を裏切る事を、イエス・キリストが予言した時の情景を描いた絵です。

ルカによる福音書 22章 21節～22節

【そこに、わたしを裏切る者が、わたしと一緒に食卓に手を置いている。人の子は定められたとおりに、去って行く。しかし人の子を裏切るその人は、わざわいである。】

なぜ、ユダはイエス・キリストを裏切ったのか… 聖書にははっきりと、【サタンがユダにはいった。】(ヨハネ 13：27)からであると書かれています。皆さんが一度は見た事、聞いた事のある「最後の晩餐」が伝えていたのは、ただ食事をしている姿ではなく、ユダという一人の人間にサタンが入り込み、それをイエス・キリストが見抜いた事を表わしていた絵だったのです。

この世の神と言われるサタンという存在、人間の心も理性(知性)も体も支配する無数の悪霊・悪魔は、おとぎ話の中や、地獄にだけいるわけではありません。イエス・キリストが地上におられた時代だけの話ではなく、今の時代も私たちの生活の中に無数に存在し、私たちの言動に自由に出入りしているのです。

「あの人なぜ…」 「なぜうちの子がこんな目にあうの!？」と、当たり前な日常がある日一転してしまう事や、自分の力ではどうする事もできない体の不調やコンプレッ

クス、深刻な現実問題は、全て人間を地獄に道連れにするためのサタンと悪霊たちの仕業、策略なのです。

テロや戦争などの殺人、不慮の事故、様々な犯罪… 今も世界中のいたるところで、いじめ、自殺、虐待、病気、LGBT、認知症、アルコール・タバコ・薬物中毒、ギャンブル依存症、窃盗症、貧困、離婚… 私達の日常生活の中で、頻繁に起きている事なのです。

“自分のこういうところが嫌い”、“なぜあんな事をしたのだろう”、“また我慢できずにひどい事を言ってしまった”、“分かっているのにまた言い訳をしてしまった”… などと言う自分自身の問題さえも、自分に入り、居座るサタン・悪霊の仕業なのです。

例えば、うつ病(精神病)は、その人の精神に問題があるからなるのではなく、うつの霊が入り込んできて急に沈み込み、無気力にさせてしまっただけです。自分は健康だと思っていた人が突然体調不良になり、癌や難病宣告を受けるのは、他者や物事への不満や憎しみ、ねたみといった悪い思いを来たらせる裁きの霊、憎しみの霊、ねたみの霊や、先祖代々受け継がれてきた血の中にある3代～4代に渡る呪い崇りの霊が、病気の霊(癌の霊)を引き連れてきたからです。

離婚する夫婦が多いのは、様々な問題を巻き起こす悪霊たちの働きの末に、最終的に夫婦の間に分派分裂の霊が動くからです。

どれだけ頑張っても、貧困から抜け出せないのは、貧困の霊がぴったりとくっついているからです。

ある日突然事故にあうのは、サタンが勝手気ままに“こいつを事故にあわせてやれ！”と無数の悪霊に命じた結果にすぎません。犯罪者がよく、「頭が真っ白になり、何も覚えていない」「急に腹が立って殺した」「殺すつもりはなかった」などと証言しますが、これも悪霊が突然入り込み、事が済んだら出て行ったことを表わしています。万引きや盗み、嘘をつく事、虐待も同じ事が言えます。まさに、「魔が差す」「我に返る」という言葉そのものなのです。

自殺者も非常に多いですが、これは自殺の霊がその人の心と理性を全うな判断ができないぐらいに追い詰めて、自ら命を絶たせるのです。最近、遺書が残っていない事も多いようですが、自殺の霊が入ればどんな人でも、突然“死にたい！死んだほうが楽だ”という思いにさせられてしまうのです。近年多い自爆テロなどは、まさにサタンが頭の洗脳教育の結果であり、人生を盗み、命を殺し、人間界を滅ぼす終末現象です。

成功していた人が、急に転落した人生を歩み始めるのにも理由があります。成功者かどうかは、どれだけお金と地位、名誉を得ているか、この世ではその基準で判断されますが、聖書は【神と富とに兼ね仕えることはできない】(マタイ6:24)と教えています。サタンはお金、地位、名誉を持ってきて人間を神から離れさせようと攻撃してきます。金銭(この世の富)を愛する霊に支配された人間は、サタンに仕えているのであり、サタンの性質同様、神の御前に自分は全てを得たと高ぶり、誇ります(高ぶりの霊とプライドの霊)。

しかし、冷酷で無慈悲なサタンは、その人を持ち上げる

だけ持ち上げ、この世の栄華を見せた後にスッと手を引くのです。サタンは人間の幸せなど願っていません。いかに不幸にするかを考え、苦しめるだけ苦しめ、あざけり喜んでいるのです。もともと人間をねたむ悪魔なのですから。

また今の時代は、いじめ問題が深刻です。いじめも自殺の原因の一つ(自殺の霊を引き寄せる要因)ですが、そこには、家族が子供の出しているSOSに気づいてあげられなかったり、子供の様子の変化を感じ取れなかったり、どんな事でも相談できる関係を築いていなかったなど、家族関係や家庭環境も関わって来るでしょう。また、いじめる側になってしまった子にも、育った家庭、学校、友人など何らかの原因があるはずです。大人(教師)はまず、子供たちの背景にある事を知り、その上でしっかりと向き合い、仲直りに至らせる事が大切です。しかし、今はその大人たちの向き合い方さえも変わりつつあるようです。

いじめ問題の解決策として、「いじめっ子とは関わってはいけない。仲良くしてはいけない」と教えている教師がいると知りました。子供たちは先生が言うのだから正しいと思って、「はい！」と返事をします。これが、真の解決策でしょうか？現代の学校教育の中では、どのようにいじめ問題を解決すれば良いのか、指導する大人(教師)自身でさえ分からない状況にあるのだと思います。

いじめ撲滅を掲げてから、何年たったのでしょうか。その場しのぎの解決策だから、いじめは一向にくなりません。人間の考える解決策では、どうにもできずに、八方塞がり

になっているのではないのでしょうか。道徳の時間には、命を大切にすること、人に親切にすること、差別をしてはいけないという事を学んでいるはずですが、現に学んでいる子供たちの世界においても、大人の世界においても、いじめは起きます。障がい者や少数派の人たちに対しても、偏見やいじめが絶えないのが現状です。

しかし、それは当然の事なのです。なぜなら、皆が本当の原因と敵を知らないからです。

この世界を支配しているサタンと無数の悪霊に目を向けると、いじめ問題の原因はとてもシンプルです。いじめの霊が動けばどんな人でもいじめの対象になり、“なんかムカつく！いじめたい！”という思いを悪霊が入れてきたら、特別な理由がなくても簡単にいじめる側になるからです。そして、悪霊に目をつけられれば、いじめられる側にもなり得るのです。クラスの中でいじめが起きていても誰も何も言えずに見て見ぬふりをするのは、そこに自分を守る（利益を優先する）自己愛の霊、無関心の霊が動くからです。そして、保護者がいじめについて学校側に追求しても、「知らなかった」「把握してなかった」「そのような事実はなかった」と言われたり、別の問題にすり替えられてしまう事がありますが、それもまた、自分を守る（利益を優先する）自己愛の霊や無責任の霊、人のせいにする霊が動くからなのです。

では、いじめはなくなるのか…いいえ、一つだけ解決方法があります！聖書にはその解決方法があるのです！

まずは、悪霊の存在をはっきりと認識する事です。誰も最初からいじめをしたいとは思っていません。当然、いじめられたいと思う人もいません。しかし、人間の感情は知性（理性）に勝ります。頭では分かっているけど、心に悪霊が忍び込んだら、“サタンが入ったら！”理性で止める事はできません。だからこそ、「いじめをしてはいけない」「仲直りしなさい」と、その場しのぎの対処法を教えるだけでは、いつまでたってもいじめたい思いに打ち勝つ力がないのです。そんな状況に対して、目に見えない悪霊の存在を知る事で、いじめる人を許し、悪霊だけを憎んで追い出さないと教えているのが聖書なのです。そして、聖書の教えに従って、いじめてきた子はいじめを認め、謝罪する事で、自分を「いじめっ子」にさせてきた悪霊から解放される事、いじめられてきた子は、相手を許す事、そのように互いが聖書の教え（真理）に従って善の行いに至れた時、神の力が働いて悪霊は去ります。いじめっ子といじめられっ子は聖書の力によって必ず和解する事が出来るのです。

証が一つあります。聖書を学ぶ子供たちは、たとえ小学2年生であっても、いじめっ子と関わるなどと言った先生の解決方法を聞いて、「何で？皆がいじめる人と関わらないで仲良くしないなんて、人を差別しているみたい。そんな風にしたら、今度はいじめる人が集団いじめにあうよ。もっといじめが広がってしまう」と思いました。そして、先生の言っている事がなぜおかしいのかを聖書に基いて考え、「聖書は、目に見えない悪霊が相手に入って自分に嫌な事を

してくるのだと教えている。私たちは、いじめる人を許して、悪霊と戦う事ができるし、イエス様がその許す心を見て相手を変えてくれる。相手も悪霊から解放される。それに、聖書には、自分がしてほしい事を相手にもしてあげなさいって書いてあるから、どんな言葉をかけられたら嫌なのか、どんな行動をとられたら辛い思いになるのか、自分がされたらどう思うかを皆で考える事が大切だと思う。一人一人が神様によって大切に造られた事を忘れてはいけない」と、自分の良心だけでなく、いじめる子をも守る答えを導き出す事ができました。

【聖書は、すべて神の靈感を受けて書かれたものであって、人を教え、戒め、正しくし、義に導くのに有益である。】(第2テモテ3：16)と聖書に書かれているように、物事の善悪の判断を考える基準(=聖書にあるサタン・悪霊についての教え)をしっかりと持っている人間は、子供であっても悪に負けない強さを持っているのです。

人間は霊・魂・体で造られています。

文部科学省が公立学校で教える道徳教育は、自分対「人」という横の関係、人に対してどうあるべきかという心(魂)の教育しかしません。悪霊は心(魂)に入り込んでくるので、そのような教育には、正しい判断(神の義)よりも情欲に先導されて余計に問題がこじれたり、いずれは爆発してしまうような我慢が伴ったり(偽善)、自分が解決したという自慢めいた思いが生じたりする事があります。

悪霊の一つに、女預言者イゼベルの霊があります。この悪霊は、神の愛よりも人間の義理、人情、ヒューマニズムを頭にさせ、特に日本人の心の教育(道徳)に多大な悪影響を及ぼしてきました。「忖度」もその一例です。

しかし、聖書の倫理は、まずイエス・キリストを受け入れて死んでいた霊を生き返らせ、霊から教育します。そして、第一に「唯一の神、イエス・キリスト(=神の言と呼ばれた)を愛する」という自分対「神」との縦の関係がある事、その次に「隣人を愛する」という自分対「人」との横の関係がある事を教えます。霊が生き返ってはじめて、人間は神との関係を回復する事ができます。それによって、聖書を学ぶ子供たちのように、どんな状況下においても神が自分の心を見ておられる、神の御前でこれは行なって良い事なのか、これは言っても良い事なのか、自分の言動はどうかを第一に考え、聖書の教え(神の言葉)に照らし合わせて過ごせるようになります。そうしたら、自ずと他者に対する批判や悪口は言えなくなり、聖書に書かれてある通り【愛、喜び、平和(平安)、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制】の思いを持って人に接する事ができるようになります。自分の知性と感情から生まれる「意思」を、聖書に従いたい「意志」に変える事ができる人間こそが、真に強い人間なのです。

ヘブル人への手紙4章12節～13節

【というのは、神の言は生きていて、力があり、もろ刃のつるぎよりも鋭くて、精神と霊魂と、関節と骨髄とを切り離す

までに刺しとおして、心の思いと志とを見分けることができる。そして、神のみまえには、あらわでない被造物はひとつもなく、すべてのものは、神の目には裸であり、あらわにされているのである。この神に対して、わたしたちは言い開きをしなくてはならない。】

明治維新で、大日本帝国憲法を制定した伊藤博文は、憲法の作り方を欧米から学ぼうとした際、欧米人の土台はもともと聖書の教えにあり、人としての在り方をわざわざ教える必要はないが、日本人は聖書にある唯一の神の存在を知らないから、一から人としての在り方を定めて教えなければならぬと気付かされ帰国したそうです。そして、教育面においては、唯一の神ではなく天皇を神とした教育勅語ができたのです。それは、今の時代にもそのまま影響を及ぼし、ついにはいじめ問題のみならず、人間の善に頼る道徳では解決できない理不尽な問題が山積みの世の中となりました。だからこそ、天地（宇宙）を創造し、まず自分を母の胎内で大切に組み立てて下さった真の神の存在を知る事、自分対「神」という縦の関係を知る事、聖書の倫理を知る事が必要です。特に学校においてそのような学びがあれば、なぜ自分や他者の命を大切にしなければならないのかを、しっかりと心に留める事ができ、必ずいじめが撲滅されるでしょう。神は愛です。人の力で解決できなかった、いじめという大きな社会問題も、聖書の力で解決する事ができます！道徳教育では不可能だった事も、聖書の倫理は可能にするのです！

マルコによる福音書 12章29節～31節

【イエスは答えられた、「第一のいましめはこれである、『イスラエルよ、聞け。主なるわたしたちの神は、ただひとりの主である。心をつくし、精神をつくし、思いをつくし、力をつくして、主なるあなたの神を愛せよ』。第二はこれである、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』。これより大事ないましめは、ほかにない。】

ローマ人への手紙 12章17節～21節

【だれに対しても悪をもって悪に報いず、すべての人に対して善を圖りなさい。あなたがたは、できる限りすべての人と平和に過ごしなさい。愛する者たちよ。自分で復讐をしないで、むしろ、神の怒りに任せなさい。なぜなら、「主が言われる。復讐はわたしのすることである。わたし自身が報復する」と書いてあるからである。むしろ、「もしあなたの敵が飢えるなら、彼に食わせ、かわくなら、彼に飲ませなさい。そうすることによって、あなたは彼の頭に燃えさかる炭火を積むことになるのである」。悪に負けてはいけない。かえって、善をもって悪に勝ちなさい。】

エペソ人への手紙 2章10節

【わたしたちは神の作品であって、良い行いをするように、キリスト・イエスにあって造られたのである。神は、わたしたちが、良い行いをして日を過ごすようにと、あらかじめ備えて下さったのである。】

あなたは、この目には見えない悪霊の存在を知っていましたか？自分や家族、周りの人が悪いではありません。たくさん悪霊が自由に動き回り、出入りしていただだけなのです。

よく、「神様の罰が当たったからこうなった」と言う人がいますが、神様は人間をととても愛しておられるので、人間が健康面において、もちろん経済的にも社会的にも祝福される事を望み、良い事だけを与えたいのです。悪い事は神様からではなく、人間をねたみ、大事な人や物を盗み、殺し、滅ぼす事が目的であるサタンから来るのです。自分なりに一生懸命現状をよくしていこうと頑張っても、サタンがこの世を支配している限り、生身の人間が、悪霊たちの動きを止める事も、自分の身を守る事もできません。神様は、そんな人間を見て、深く心を痛めておられます。特に、今の時代は悪霊の動きが活発であると共に、ますます人間がそれに翻弄され続け、末期症状だと言えるでしょう。

しかし、神様は、すでに2000年前に対策を立てておられました。自分の息子であるイエス・キリスト(救い主)に「悪霊に打ち勝つ権威と力」を与えて、地上に送って下さったのです。

ヨハネの第一の手紙3章8節c

【神の子が現れたのは、悪魔のわざを滅ぼしてしまうためである。】

日本のみならず、世界中に色々な神々がいるとされていますが、この力を与えられ、人間をサタンの支配下から救っ

て下さるのはイエス・キリストだけであり、他の神々とは、サタンが人間を惑わすために創り上げた偽物であると、聖書は教えています。

マルコによる福音書1章23節～27節

【ちょうどその時、けがれた霊につかれた者が会堂にいて、叫んで言った、「ナザレのイエスよ、あなたはわたしたちとなんの係わりがあるのです。わたしたちを滅ぼしにこられたのですか。あなたがどなたであるか、わかっています。神の聖者です」。イエスはこれをしかって、「黙れ、この人から出て行け」と言われた。すると、けがれた霊は彼をひきつけさせ、大声をあげて、その人から出て行った。人々はみな驚きのあまり、互に論じて言った、「これは、いったい何事か。権威ある新しい教だ。けがれた霊にさえ命じられると、彼らは従うのだ。】

マルコによる福音書1章32節～34節

【夕暮になり日が沈むと、人々は病人や悪霊につかれた者をみな、イエスのところに連れてきた。こうして、町中の者が戸口に集まった。イエスは、さまざまの病をわずらっている多くの人々をいやし、また多くの悪霊を追い出された。また、悪霊どもに、物言うことをお許しにならなかった。彼らがイエスを知っていたからである。】

使徒行伝4章12節

【この人(イエス・キリスト)による以外に救はない。わた

私たちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである。】

ヨハネによる福音書16章33節

【これらのことをあなたがたに話したのは、わたし（イエス・キリスト）にあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。】

イエス・キリストは、悪霊に翻弄されているたくさんの人々から悪霊を追い出し、病気を癒されました。それは、作り話ではなく、今日に至るまで、信じる人々によって同様に行なわれ続けてきました。そして、イエス・キリストを信じて受け入れた人（クリスチャン）だけに、助け主聖霊によってサタン・悪霊に打ち勝つ権威と、聖書に書かれている事＝‘神の言葉’を守り行う力を与えて下さったのです。

ルカによる福音書10章19節

【わたしはあなたがたに、へびやさそりを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち勝つ権威を授けた。だから、あなたがたに害をおよぼす者はまったく無いであろう。】

あなたを悩ませ苦しめてきたのは、目に見える人間や体に現れる病気、立ち足はだかる現実問題だと思ってきたかもしれませんが、今日からは、目には見えないサタンとその手下の悪霊ども＝本当の敵を知って下さい。そして、

イエス・キリストの権威と力を行使して、次のように声に出して戦い、解放されて下さい！

※以下の祈りの〇〇の霊に、自分を苦しめて来た症状や状態を入れて下さい。

例えば、頭痛に悩んでいる人は頭痛の霊、風邪をひいたら、咳の霊、熱の霊、許せない人がいる人は、裁きの霊、憎しみの霊、アルコール・タバコ・薬物がやめられない人は、自己愛の霊、自己憐憫の霊、自殺の霊、アルコールの霊、ニコチンの霊、快楽の霊、ギャンブルに依存している人は、金銭を愛する霊、現実逃避の霊、自分はLGBTだと思っている人は、3代～4代に渡る呪い崇りの霊、性的倒錯の霊、惑わしの霊、うそつきの霊、思い込みの霊などというような悪霊が入り込んでいる事が考えられるので、自分で言葉にし声に出して追い出して下さい。

サタン・悪霊からの解放の祈り

「聖書に、【信じる者には、このようなしるしが伴う。すなわち、彼らはわたしの名で悪霊を追い出し、新しい言葉を語り、へびをつかむであろう。また、毒を飲んでも、決して害を受けない。病人に手をおけば、いやされる。】（マルコ16：17～18）と書かれてある！イエス・キリストの御名によって命ずる。サタンよ、〇〇の霊よ！お前たちを縛り上げる！解き放ってやるから、今すぐ私から出て行け！二度と戻って来るな！イエス様、たった今解放された事を感謝します。私の頭の先からつま先まで、イエス様の十字架

の血を注ぎます。イエス様の御名前にすべての栄光を帰して感謝して祈ります。アーメン」

最後に自分（他者）の中に入り込んでいた悪霊から、実際に解放された方々の手記を紹介します。

虐待の霊

私は子供に対する体罰（虐待）を止めることができなくて、我に返った時には自分がしてしまった事に対する罪悪感と絶望感にさいなまれる日々を過ごしていました。あまりにひどい時期はカウンセリングにも通いましたが、心の平安が持続するわけでもなく、しばらくすると、また同じ事を繰り返していました。自分の力ではどうする事もできなかったのです。そんな私に、クリスチャンが「悪霊（サタン）」の存在と、私ではなく虐待の霊が、私に虐待をさせてきたのだと教えてくれました。私はずっと自分を責めていたので、この福音を聞いた時に、驚きと共に不思議なほど心が解放されました。聖書には、この世を支配しているのは悪霊であると書かれていて、その悪霊の力によって翻弄させられた人間は、自分の力では悪霊に打ち勝ち問題を解決していくことは不可能なのだと言身をもって体験しました。そして私は、聖書には何が書いてあるのかをもっと知りたいという強い思いから聖書を学び始め、悪霊がどうして私たち人間を苦しめるのか、それに打ち勝って、気休めではない本当に平安な毎日を送るためにはどうしたら良いのかを知る事が出来ました。今は、イエス・キリストを救い主として受け

入れ、虐待をはじめとする様々な悪霊からの攻撃に翻弄させられる事もなくなり、母として、妻として、一人の人間として豊かに毎日を送っています。（40代女性）

自殺の霊

私には自殺願望がありました。学生時代に些細な事からいじめにあい、自分という人間を好きになる事ができず、いつも自殺したいと思っていました。何度も自殺を図ろうとしましたが、いざとなると怖くてできず、余計に自分を苦しめるだけでした。でも、それは、目には見えないけれど、しかし確かに存在する悪霊が持ってくる思いだという事を知りました。なぜなら神様は、私を母の胎内で造られた時に、死にたいなんて思わない、明るく幸せに生きたいという思い、神様に従って生きたいと願う性質（＝霊）を与えて下さったからです。私の場合、自殺願望は、自分の至らない点や改善しなくてはならない点など、現実にある問題から逃げるための極端な口実＝自己愛の霊と、精神的に病んでいる自分をいたわってほしい、かまってほしいという思い＝遊女の霊 から来ていました。なので、私は悪霊を忌み嫌って、『イエス・キリストの御名で命じる。自殺の霊、自己愛の霊、遊女の霊よ、私から出て行け！』とイエス様のお名前を命じました。すると悪霊は出て行き、私は本来の自分に戻るという体験をしました。その後、イエス様に従い、聖霊が導いて下さった職場が、社会人として成長するための訓練場所として与えられました。その中で、自分にとって嫌な事や逃げ出したい事がある度に、聖書に書か

れてある通り、私の中に以前住んでいた悪霊が、他の悪霊を引き連れて何度も戻ってこようとしてきましたが、私はその度に忌み嫌って、信仰の言葉を発し戦い抜きました。そして、自分の至らない点=現実にある問題を、解消する事ができたのです。今では死にたいと思っていた事が遠い昔のように感じられます。性格や生活の土台から変えて下さるのが、イエス様=みことばの持つ力なのです。面倒くさがりで、現実逃避ばかり考えていた私がこんな風になれるなんて、本当に考えてもいませんでした。私は今、どんな嫌な事を悪霊がもってきてても跳ねのけられる、強い自分になりました。(20代女性)

臆する霊

私は、人の輪に入る事ができなかつたり、集団の中で発言ができない事が多々ありました。しゃべることが嫌いとか、緊張するという事ではなく、まるで喉に栓をされたかのように言葉が出ません。体もこわばり、声は震え、とても苦しくなりました。そして、いつからか一歩踏み出すどころか、自分から常に一歩引いたところで、人と付き合っていました。一人が楽し、一人で生きて行こうと思っていました。しかし、それは臆する霊によるものだと牧師さんから教えてもらいました。

踏み出すより一歩下がった方が楽でしたが、臆して一歩引くと人から疎外されているような気持ちになります。臆する霊に捕われた人間は孤独であるとも教えられました。ですが、自分から一歩引いているにも関わらず、疎外され

ていると思うと、輪の中にいる人たちがねたましくなります。自分の中にねたみの霊が入って来るのです。「あの人はあんなに明るくて楽しそう・・・いいなあ」とうらやましくなります。また、「なんであんなことが楽しいの!? 私には分からない」とバカにして人を見下す思いも来ます。高ぶりの霊です。

そして、「私は、ここにいない方が良いのでは?」「みんなも私のことをダメな奴と思っているのではないか?」「こんなダメな私は、イエス様を裏切ったユダ(イエス様を裏切った弟子)かもしれない?」と占います。占いの霊です。占う(想像・妄想)と、自分で勝手に被害者意識のようなものを感じて、「こんな思いになるのは、あの人のせいだ」と人のせいにしたり、腹が立ちます。憎しみの霊、裁きの霊が入るのです。

高ぶり、占った後には、「みんなと比べて私は・・・」「私はなんて嫌な奴なんだろう」「なんでみんなと同じ様にできないんだろう」と自己嫌悪になり、自己憐憫の霊に支配されます。私は、いつも苦しくて泣いていました。

臆する→ねたむ→占う→裁く→高ぶる→自己嫌悪になる→自己憐憫に陥る→臆する・・・牧師を通して臆する霊が引き連れて来る悪霊と、その働きを知り、自分の状態はまさにその通りであり、完全にまかれていたのだと納得しました。そのままいたら、一人にされてヤギとなり、サタンに滅ぼされ、地獄に連れていかれるところでした。私は示された悪霊を一つずつイエス様の御名で追い出し、解放されました。(30代女性)

認知症

私は介護士です。認知症の始まりは、物忘れから始まります。特に大事なもの（お金、通帳、財布など）をしまった場所や、しまった事自体を忘れてしまい、身の回りの物を誰かが盗んだ、盗られたと言って、特に身近にいる家族や介護者を疑うようになる物盗られ妄想があります。私も実際に関わる中で、「お金が盗まれた！盗られた！」と言われたことがありました。また、見えていないのに「ほら！向こうから沢山の人が歩いてきたよ」と言ったり、聞こえていないのに「迎えに来たから早くおいでよ！」と言う幻覚、幻聴や、何かに執着すると落ち着きがなくなり、一晩中動き回る徘徊、また不眠もあり、それを制止すると怒ったり、暴力を振るわれるという、普通では考えられない事を体験しました。

しかし、私は聖書を学んだ事で、悪霊の存在を知り、イエス様のお名前でも戦える事を知りました。聖霊を頂き、悪霊の働きを見分けて戦う力も与えられ、現場で実践していききました。悪い事は神からは来ません。認知症の人と関わる中で、どれだけ悪霊に捕えられているのかも知る事ができました。

私は認知症の方々と接する中で、同じアルツハイマー型認知症でも、生まれ育った環境、人間関係、もともと持っている性格などで症状が違ふ事を感じてきました。それは、3代～4代に渡ってその家系・血の中にある呪い崇りの霊力が影響しているのだと聖書を通して教えられました。また、頑固な霊、強情な霊、高ぶりの霊、プライドの霊、

憎しみの霊、裁きの霊、分派分裂の霊などが働くと、頑として自分の思いを通そうとしてしまい、他人とぶつかり合います。認知症の表れである徘徊、不眠、幻覚、妄想なども、占いの霊、オカルトの霊、宗教の霊から来るのだと分かりました。認知症は、記憶や判断力などに障害を起こしているもので、説明してもすぐに忘れてしまい、善悪の判断もできず、どうしていいのかわからなくなります。介護する側にとっては、毎日その繰り返しのため、肉体的にも精神的にも疲れさせられます。まさに、悪霊に翻弄されている状態です。

しかし、私が、イエス様のお名前でもその人を捕えている悪霊を一つ一つ縛り上げて、戦い、追い出していくと、落ち着かず徘徊していた人が、動き回ることなく落ち着いて穏やかに過ごせるようになり、眠れなかった人が朝まで起きることなく眠れるようになります。そして、イエス・キリストを救い主として受け入れる事を勧めると、落ち着いて受け入れる祈りをする事ができ、当人も私自身も平安に過ごす事ができています。もし、イエス様に会える事もなく、悪霊の存在も知らなかったら、介護の仕事は私にとって過酷で重荷を負い、続かなかったと思います。しかし、今はイエス様にあって、日々楽しくストレスもなく介護の仕事に勤しみ、突然認知症を発症して魂が傷ついておられる方々を救いに導き、天国行きの切符を与えると働きもさせて頂いています。この仕事を与えて下さったイエス様に感謝します。（50代女性）

自分がどんな悪霊に捕えられていたのか、現在どんな悪霊に捕えられているのか、これは実に興味深い話であり、知るべき事柄だと思います。今流行りのスピリチュアルの世界や霊能といったオカルトの話ではなく、聖書に書かれている聖霊の賜物である【霊を見分ける力】によって知る事のできる、現実的で確かな話です。聖書は、なぜ？ どうして？ という世の中の疑問を、すべて解決します。自分を苦しめてきた者の正体を知って、キリストの権威を授かったら、全ての問題と病は解決し、人は幸福で平安な人生を歩む事ができます。この世界で起きている事の原因と仕組みは、聖書によれば、実はとても分かりやすい事なのです。

しかし、この世はサタンの支配下であるが故に、悪霊についての教えと悪霊を追い出せるという権威だけは、世の中に知らされる事はありませんでした。なぜなら、クリスチャン（キリスト教会）でさえも、この教えと権威を見えなくさせられ、聖書から取り除いてきたからです。どれだけのクリスチャンたちが、実際にキリストの権威を行使し、悪霊の勢力と戦っているのでしょうか？ 誰が敵であるかも分からず、その敵と戦うためにイエス様から与えられた権威がある事も知らなければ、結局クリスチャン自身も、力のない**宗教の霊**に翻弄されているのです。ここに、先に（P 9）述べた**女預言者イゼベルの霊**の働きがあります。女預言者イゼベルの霊は、神の愛の前にしゃしゃり出て、**偽キリストの霊**として、これまでの日本のキリスト教伝道・宣教にも巧みに介入し、クリスチャンをかき乱し、真のイエス・

キリストの教えの布教（福音）を、他の宗教と同列に力のない宗教に留め、ずっと邪魔をしてきたのです。

ヨハネの黙示録2章19節～23節

【わたしは、あなたのわざと、あなたの愛と信仰と奉仕と忍耐とを知っている。また、あなたの後のわざが、初めよりもまさっていることを知っている。しかし、あなたに対して責むべきことがある。あなたは、あのイゼベルという女を、そのなすがままにさせている。この女は女預言者と自称し、わたしの僕たちを教え、惑わして、不品行をさせ、偶像にささげたものを食べさせている。わたしは、この女に悔い改めるおりとを与えたが、悔い改めてその不品行をやめようとはしない。見よ、わたしはこの女を病の床に投げ入れる。この女と姦淫する者をも、悔い改めて彼女のわざから離れなければ、大きな患難の中に投げ入れる。また、この女の子供たちをも打ち殺そう。こうしてすべての教会は、わたしが人の心の奥底までも探り知る者であることを悟るであろう。そしてわたしは、あなたがたひとりびとりのわざに応じて報いよう。】

しかし、それも終わりにしなければなりません。クリスチャンが、声を大にして悪霊の教えと、イエス・キリストによって与えられる権威を伝え、実践していかなければなりません。まずは、教会で、神学校で、キリスト教系の学校で、イエス・キリストの権威と力を行使する真のクリスチャンが誕生する事を祈ります。

ヤコブの手紙4章7節

【そういうわけだから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ちむかいなさい。そうすれば、彼はあなたがたから逃げ去るであろう。】

<実録>

聖書の教えに従っていじめ問題を乗り越えたクリスチャン親子の話です。

小学四年生の息子は、学校でクラスの友達から嫌がらせをされたり、言葉で魂を傷つけられて帰ってくる事がしばしばありました。家で息子の話を聞き、息子自身に悪い点はないのか吟味し、みことばを霊にまき、悪に対して善で打ち勝つというみことばを握りしめ、相手を許し、愛し、祝福し、尊敬する祈りを共にしては、また学校に送り出す・・・を繰り返す毎日でした。

先日、学校の面談の時に担任の先生から、息子が学校の休み時間に複数の友達に対して、「死ね！」と言ったという事を聞きました。私は驚き、「どうしてそんな事を言ったの？死ねって意味が分かっているの？どんな理由があっても、それは人に対して絶対に言ったらいけない言葉なんだよ！」と、一方的に息子を責めました。すると息子は、「なんにも分からないんだよ！死ねの意味も分からないし、どうでもいいんだよ！」と取り乱して泣いていました。初めて

そんな様子の息子を見て驚き、担任の先生と一緒に、どうしてそんな事を言ってしまったのか、そこに至るまでの状況を丁寧に一つずつ聞いていきました。すると、「死ね！」「どっかいつちまえ！」という言葉は、特定の子たちからずっと言われ続けていた言葉であり、また、息子にだけ都合の悪いように遊びのルールを変えられたりしており、それに対して息子はずっと耐えていたとの事、今回それが息子自身の中で限界に達し、遊びの中でイライラした時に思わず、「死ね！」という言葉が出てしまったとの事でした。

この息子の「死ね！」という発言があった事で、そこに至るまでの友人関係が明らかになり、先生が「死ね！」と息子に言い続けて嫌がらせをしてきた子たちに、慎重に話を聞いていく事となりました。

その翌日、息子の方から自分が「死ね！」と言ってしまった友達に対して謝る事ができ、その友達も息子が嫌がらせを受けているのはかわいそうだと思っていたから、これからはそんな事があつたら嫌がらせをしている子に注意するね！と言ってくれたと報告を受けました。

また、「死ね！」と言いつけていた相手の子の親御さんからも謝罪の電話を頂き、子供たちも和解する事ができました。電話を下さった一人の親御さんからは、「うちの子供は先生が入って止めてくれなければ、分からなかったようです」と言われました。続いて、担任の先生から電話を頂きました。私は、息子も自分がまいた悪いものを刈り取って嫌がらせを受けたのではないかと先生に確認しましたが、

先生からは、「子供たちによく話を聞いたところ、今回のことは全く息子さんに非がありません。何週間もつらい思いをさせてしまい申し訳ありませんでした」と謝罪を受けました。

今回の事を通して、みことばを自分にまき、みことばにとどまって行なう主の訓練と、イエス様が共におられ、神のなさり方があるのだという事を体験しました。

息子が頂いていたみことばは、
【だれに対しても悪をもって悪に報いず、すべての人に対して善を図りなさい。あなたがたは、できる限りすべての人と平和に過ごしなさい。愛する者たちよ。自分で復讐をしないで、むしろ、神の怒りに任せなさい。なぜなら、「主が言われる。復讐はわたしのすることである。わたし自身が報復する」と書いてあるからである。むしろ、「もしあなたの敵が飢えるなら、彼に食わせ、かわくなら、彼に飲ませなさい。そうすることによって、あなたは彼の頭に燃えさかる炭火を積むことになるのである」。悪に負けてはいけない。かえって、善をもって悪に勝ちなさい。】（ローマ人への手紙 12章17節～21節）

【最後に言う。主にあって、その偉大な力によって、強くなりなさい。悪魔の策略に対抗して立ちうるために、神の武具で身を固めなさい。わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである。】（エペソ人への手紙6章10節～12節）

【神のなされることは皆その時にかなって美しい。】（伝道の書3章11節a）

私が頂いていたみことばは、
【まちがってはいけない、神は侮られるようなかたではない。人は自分のまいたものを、刈り取ることになる。すなわち、自分の肉にまく者は、肉から滅びを刈り取り、霊にまく者は、霊から永遠のいのちを刈り取るであろう。わたしたちは、善を行うことに、うみ疲れてはならない。たゆまないでいると、時が来れば刈り取るようになる。】（ガラテヤ人への手紙6章7節～9節）

【悪をもって悪に報いず、悪口をもって悪口に報いず、かえって、祝福をもって報いなさい。あなたがたが召されたのは、祝福を受け継ぐためなのである。「いのちを愛し、さいわいな日々を過ごそうと願う人は、舌を制して悪を言わず、くちびるを閉じて偽りを語らず、悪を避けて善を行い、平和を求めて、これを追え。主の目は義人たちに注がれ、主の耳は彼らの祈にかたむく。しかし主の御顔は、悪を行う者に対して向かう。】（ペテロの第一の手紙3章9節～12節）でした。

悪に対して善で打ち勝つためには、「聖書に【～】と書かれてある！」と頂いたみことばを声に出して言い続け、みことばにとどまる事、また、どんな時も敵はサタンという事を忘れず、サタンにつかわれている相手を血肉で見ずに、

「〇〇君（←相手の名前を言う）を許します。愛します。祝福します。尊敬します」と言い続ける事が求められます。初めに言^{ことば}があり、すべてのものは言^{ことば}によって出来たと書かれてあるのですから。主の訓練は全てイエス様の御手の中での訓練です。私たちの全てを御存知のイエス様は、息子の歩みも、思いも、限界も、全て知っていて下さいました。

ローマ人への手紙12章19節に、【わたし自身が報復する】と書かれてあります。今回、みことばにとどまって善を行っていった時、息子の限界をイエス様は御存知で、全ての事が神のタイミングで、聖霊によって明るみにされました。その時には、上に立つ権威である担任の先生が使われ、息子の潔白を証明し、相手の子たちにも「悪い事をした。先生が入ってとめてくれなければ分からなかった」という【神の報復⇒相手の子に分かるように知らせる】というみことばが成就していく事となったのです。

最後まで守り抜いて下さったイエス様に感謝します。そして、この訓練を通して、聖書が真理である事を改めて確信しました。その恵みに感謝します。希望は失望に終わりませんでした！全ての栄光を、主イエス様に帰します。

「ぶどうの木」発行

2017.6.19

「ぶどうの木」発行
<http://budounoki92.com/>